令和２年度「県立学校オリンピック・パラリンピック教育推進事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　埼玉県　】

学校名【県立入間わかくさ高等特別支援学校】

１実践テーマ	Ⅰ・Ⅱ・(Ⅲ)・Ⅳ・Ⅴ（複数選択可）
２実施対象者 （学年・人数）	１～３学年 １４８人
３展開の形式	（１）学校における活動 (①) 教科名（総合的な学習の時間、体育） ② 行事名（『わかくさスポーツフェスティバル』） ③ その他（　　） （２）地域における活動 ① イベント名（　　） ② その他　（　　）
４　目　標 （ねらい）	・オリンピック・パラリンピックの開催に際し、障害を持った方々に接する機会を見据えバリアフリーについて学ぶ。 ・オリンピック・パラリンピックへの興味関心を持ち、主体的に応援できるようになる。
５　取組内容	○　I’m POSSIBLE　教材を使用した学習 　車いすのアスリートについての学習を各学年の総合的な学習の時間に２回にわたって学習した。 ○　パラアスリートを応援しよう 　本事業により、来校いただいたアスリートに感謝の気持ちや、応援の気持ちを表すため、学科全体で応援フラッグを作成しアスリートに送った。
６　主な成果	○　I’m POSSIBLE　教材を使用した学習 　本校職業学科は軽度知的障害の生徒が在籍していて、生徒の多くは将来的に一般企業へ就職し、自立して社会生活を送っていくことを目標としている。肢体不自由の方々に対する理解や配慮などを、車いすのアスリートについての題材で「I’m POSSIBLE」を通して学習することができた。 ○　パラアスリートを応援しよう 　本事業により、来校いただいたアスリートに感謝の気持ちや、応援の気持ちを表すため、学科全体で応援フラッグを作成しアスリートに送り、感謝の意を届けるとともに、自分自身も応援者としてパラリンピックに関わっていると感じることができた。

７実践において工夫した点（事業の特色）	本校は軽度の知的障害を持った生徒が通う学校であり、卒業後は自立し社会参加を目指す者が多い。このため講演会のテーマは「障害を持ちながらも未来に向かって努力し続けるアスリートの姿を見る」と設定した。自分たちと同じような障害を持ちながらも社会的に自立し、日頃より努力重ねながらパラリンピックを目指しているアスリートを選定し、実演や交流ができるように工夫した。 また一方では、社会の中で活躍し、他の障害を持った方々への理解を深め、助けとなっていくことや、オリンピック・パラリンピックの開催にあわせ、バリアフリーなどについて学び、主体的な行動（競技の開催日や時間を調べて応援する・実際に自分自身もスポーツを始めてみる等）ができるよう、想定した授業を行った。
８主な課題等	本校は平素より、国際化に向けた授業を行っている。このためオリンピック・パラリンピックの開催に向け、国際理解が進んできている。今後は本校の特別支援学校という強みを生かし、バリアフリー化などについて更なる理解を深めさせ、情報発信などを進めていきたい。 また埼玉のご当地選手など応援するアスリートを選定し、取り組むことで、生徒はさらに親しみが湧くと思われる。
９来年度以降の実施予定	入間わかくさ高等特別支援学校は「入間わかくさからTOKYO2020 へ届け」をテーマに、オリンピック・パラリンピックの終了まで、調べ学習や校内掲示を行い情報発信していく。また、トップアスリートとの交流は何らかの形で継続していきたいと考えている。

令和２年度「県立学校オリンピック・パラリンピック教育推進事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　埼玉県　】

学校名【県立入間わかくさ高等特別支援学校】

１実践テーマ	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（複数選択可）
２実施対象者 （学年・人数）	１～３学年 １４８人
３展開の形式	（３）学校における活動 ①教科名（総合的な学習の時間、体育） ② 行事名（『わかくさスポーツフェスティバル』） ③ その他（　　） （４）地域における活動 ① イベント名（　　） ② その他　（　　）
４　目　標 （ねらい）	・トップアスリートや指導者と触れ合い刺激を受けることで、今後の様々な活動への意欲を高める。 ・オリンピックパラリンピックへの興味・関心を持ち、主体的に応援できるようになる。
５　取組内容	○　オリパラ講演会『オリパラに携わっている人の話を聞こう』 日本車いすバスケットボール協会と日本陸上競技連盟で活動している本校職員に、オリンピック・パラリンピックを開催する側の取り組みや、それぞれの競技の注目アスリートなどについて話してもらった。 ○　オリパラ体験会『トップアスリートと体を動かそう』 本来トップアスリートに『パラリンピックに向けて』というテーマでお話しいただき、その後にパラアスリートの実演を見学する予定であったが、コロナ禍の影響により講演会を取りやめ、体育の授業の中でパラアスリートに実演を披露していただいたり、アドバイスをもらったりというスポーツ体験会を行った。
６　主な成果	○　オリパラ講演会『オリパラに携わっている人の話を聞こう』 　多くの生徒はオリンピック、パラリンピックは自分たちとは無関係で知らない人たちが運営していると考えている。このため、各スポーツ協会などで仕事をしている教員が、オリンピック・パラリンピックについて話すことで、オリンピック・パラリンピックが身近な存在であることに気付き、そのような立場の人とオリンピック・パラリンピックについて話すことで、「自分が知っている人たちがオリンピック・パラリンピックに関わっている」と感じることができた。

○　オリパラ体験会『トップアスリートと体を動かそう』

　今回は県内の特別支援学校・職業学科の卒業生や、仕事を持ちながらパラリンピックを目指すパラアスリートに来校していただいた。トップアスリートの高い競技力を肌で感じるとともに、同じ職業学科の先輩たちがどのように高等部時代を過ごしたかを聞いたり、仕事をしながらパラリンピックを目指す苦悩などについても触れていただいたりしたことで、生徒にとっての今後の自分自身の在り方についても考える機会となった。

　また、パラアスリートを中心に指導している指導者の方にも「君たちの中にも将来のトップアスリートになれる人材がたくさんいる」というように、生徒の可能性についても話していただいたことで、自分も頑張ってみたいと思ったという声が聞かれた。

７実践において工夫した点（事業の特色）	本校は軽度の知的障害を持った生徒が通う学校であり、卒業後は自立し社会参加を目指す者が多い。このため講演会のテーマは「障害を持ちながらも未来に向かって努力し続けるアスリートの姿を見る」と設定し、自分たちと同じような障害を持ちながらも社会的に自立し、さらに努力してパラリンピックを目指しているアスリートを選定した。 また一方では、社会の中で活躍し、他の障害を持った方々への理解や助けとなっていくことや、オリンピック・パラリンピックの開催について主体的な行動（競技の開催日や時間を調べて応援する・実際に自分自身もスポーツを始めてみる等）を取ることができるようになることを想定した授業を行った。
８主な課題等	コロナ禍の中、制約のある中でアスリートにも生徒にも意義のある開催方法などを考えることに苦慮した。一方で、オリンピック・パラリンピックの開催に関わらず、このようなトップアスリートと交流する機会を毎年できると本校生徒にも良い刺激になり、同様にアスリートの方々にも良い刺激になったのではないかと感じる。埼玉のご当地選手など応援するアスリートを選定し、取り組むことで、生徒はさらに親しみが湧くと思われる。
９来年度以降の実施予定	入間わかくさ高等特別支援学校は「入間わかくさからTOKYO2020へ届け」をテーマに、オリンピック・パラリンピックの終了まで、調べ学習や校内掲示を行い情報発信していく。また、トップアスリートとの交流は何らかの形で継続していきたいと考えている。